

20年に渡り日本の出版コンテンツを 台湾に紹介 台湾トーハン

台湾初の日本資本による出版社である台湾東販股份有限公司。海賊版の氾濫と淘汰、著作権ビジネスの振興、台湾のWTO加盟、インターネットの普及、オンライン販売の拡大など、台湾出版業界を取り巻く環境が激変した20年間に渡り、日本のコンテンツを台湾に紹介し続けてきた台湾東販総経理の小宮秀之氏にお話をうかがった。



台湾東販(股)
総経理 小宮秀之氏

事業の現況を教えてください。

メインである日本の書籍の翻訳出版のほか、台湾人作家によるマンガや実用書のオリジナルコンテンツの出版、ファッション、グルメ情報誌、通販雑誌を編集、発行しています。台湾では日本文化が親近感やリスペクトを持って受け入れられるので、マンガから小説、写真集、料理本まで幅広いコンテンツを供給しています。

最近では、コーヒーショップや屋台などの経営ノウハウを紹介する「開店一本道」シリーズや、ジブリ作品のフィルムコミックを子供向けに編集した「アニメ絵本シリーズ」など、シリーズものに力を入れています。また、プロ向けのパンやスイーツ、日本料理などの料理本も好調です。400～500円と類書の中では高価なのですが、読者のニーズと合致する本は高くても売れます。この点は台湾でも日本と同じですね。

取次ではなく出版社として台湾に進出した経緯は？

1990年の現地法人設立前から、取次業者に対する物流の技術支援や貿易を通じて、台湾とは関係がありました。その中で「台湾の出版界に対してど

んな貢献ができるか」、或いは「台湾市場で何ができるか」といった意識が社として育まれていきました。

ただ、台湾には取次も書店も既に地場のしっかりした業者があり、海外から参入して競合するのは得策ではありませんでした。出版社なら地場の業者と共存できますし、「台湾に日本のいいコンテンツを供給したい」という社の希望にも適っていました。弊社の台湾進出後、著作権部門を持たない日本の中小出版社から「トーハンさんを通じて台湾で本を売りたい」という話をたくさんいただきました。地場の出版社も日本のコンテンツのライセンス獲得に乗り出したことから、台湾の著作権ビジネスが本格化していきました。

当時の台湾の日本の本を巡る状況は？

今でこそ紙のコンテンツの海賊版はほぼ撲滅されましたが、当時の台湾はベルヌ条約等の国際的な枠組みにも入っておらず、日台間に著作権保護の取り決めもなかったので、海賊版が氾濫していました。

しかしこの頃には小学館さんや講談社さんが海

日本企業から見た台湾

著作権発行業者とライセンス契約を交わす動きを始めていました。業者側も契約によって排他的権利と利益が確保できるというメリットがありました。また、当時台湾はGATT加入を目指しており、「著作権を守っていこう」という気風が感じられ、ビジネスの成長が期待できました。

日台の出版文化の違いで苦労した点は？

マンガの表現を巡る問題はずっと議論になっています。暴力や性的表現が含まれるコンテンツは、各出版社の判断で「18歳以下閲覧不可」の「限制級」に分類されます。場合によっては原作者の了解を得てコマをカットしたり、修正したりすることもあります。「出版・表現の自由」は堅持すべきですが、ある程度は台湾の通念に合わせることも必要です。ただ、日本では少年誌に掲載されているマンガでも暴力表現が問題視されることがあり、判断基準の明確化が求められます。

販売では、台湾では日本と比べて取次の力が弱く、書店が出版社と直接取引するケースが多い点が気になります。「取次を通さない方が儲かる」という理由からですが、取次に力があれば、出版社も書店も商品管理がもっと楽になるはずですが。

また、日本では書店が「本屋大賞」のような文学賞を作ったり、特定の作品やジャンルを重点的にPRしたりして、ブームを仕掛けることがありますが、台湾ではこうした動きが不十分です。書店も

出版産業を担っているのですから、もっと積極的になってもらいたいし、なるべきだと思います。

経営上の課題と展望は？

まずはオリジナルコンテンツを充実させることです。台湾ではマンガも雑誌も、まだまだ作り手が十分に育っておらず、海外作品の翻訳出版の割合が非常に高い状況です。日本のように出版が花形の仕事ではなく対価が低いという問題もありますが、業界の発展には人材の育成が不可欠です。

販売では、新しいチャネルの活用が必要です。今は店舗販売とオンライン販売の比率は95：5くらいですが、今後は必ずオンラインが増えていきます。日本で普及しつつあるマンガや小説の「ケータイコンテンツ」は既に台湾でも販売が始まっており、弊社も参入を検討しています。

台湾でも「出版不況」だと言われますが、本を読む人口はそんなに減っていないと思います。情報の量と多様さでは本や雑誌はネットには叶わないので、「紙媒体は何ができるか」という根源的なところが問われています。結局一番大切なのはコンテンツ。読者のニーズの変化をしっかりと押さえられれば、必ずいい方向へと進んでいけます。

- ありがとうございました。

台湾東販股份有限公司基本データ

会社名	台湾東販股份有限公司
設立時間	1990年
董事長	上瀧博正
資本金	NT4800万元
売上	NT約1.82億元(2008年)
社員数	44名
事業内容	日本の書籍の翻訳出版、オリジナル書籍の出版、月間情報誌「HERE!」、「BANG!」等の発行。2008年は書籍279点、雑誌は5誌計34点を発行。

注) 年間売上、社員数は2009年3月時点のデータによる。出所)ヒアリングよりNRI整理

台湾東販の書籍販売部数上位10冊(2008年)

神奇!BANANA早餐減肥法(原題「朝バナナダイエット」)
B型人(「B型自分の説明書」)
O型人(「O型自分の説明書」)
A型人(「A型自分の説明書」)
AB型人(「AB型自分の説明書」)
日本7-ELEVEN朝礼夕改的秘密(「朝令暮改の発想」)
新谷弘實の不生病7守則(「病気にならない7つの方法」)
龍猫故事書(アニメ絵本「となりのトトロ」)
崖上のPONYO(フィルムコミック「崖の上のポニョ」)
River作品集1(台湾人作家の漫画)

出所)ヒアリングよりNRI整理